

令和元年5月17日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2018

課題番号：26300021

研究課題名(和文) アラブ=ベルベル文学の比較地域文化的研究体制の構築

研究課題名(英文) Comparative Area Studies of the Arabo-Berber Literatures

研究代表者

鵜戸 聡 (UDO, SATOSHI)

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・准教授

研究者番号：70713981

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本マグリブ文学研究会を母体に、20世紀中葉以降大きく発展したアルジェリア文学を中核とする「マグリブ文学」の共同研究を進め、その歴史的展開を具体的作品(及びその受容)に即して分析するとともに、東方アラブ地域(マシュレク)を含む広域フランス語圏文学・当該地域内外のアラビア語文学・先住民ベルベルの文化などが交錯するハイブリッドなコーパスとして位置付けた。また、国際シンポジウムを継続的に開催し、海外の関連研究者との研究協力体制を強化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フランス植民地時代の末から大きく発展したマグリブ文学は、かつての植民地文学でもあり、カナダやカリブ海、西アフリカなどに広がる現代フランス語圏文学の重要な一部でもあり、多言語地域(ベルベル諸語・口語/文語アラビア語・フランス語)における他者の言語(フランス語)による文学実践でもあり、その研究は人間のアイデンティティが言語や民族、宗教あるいは政治といかなる関係を切り結んでいるのかを探求するという意義を有する。

研究成果の概要(英文)：Based in the "Japanese Association of Maghrebi Literature", we have conducted a joint study of the North African Literature (especially in Algeria), which had developed significantly since the middle of the 20th century. We have analyzed its historical development in light of the concrete works (and their reception) as a hybrid corpus at the crossroad of the world-wide Francophone literatures, including the Eastern Arab region (Mashrek), the Arabic Literature from inside and outside of the Maghrebi region, and the vernacular culture of Berber people. In addition, international symposiums were held on an ongoing basis to strengthen research cooperation with overseas researchers.

研究分野：アラブ=ベルベル文学

キーワード：マグリブ文学 アラブ文学 アルジェリア文学 ベルベル文化 レバノン文学

様式 C - 19 , F - 19 - 1 , Z - 19 , CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アルジェリアを中心としたフランス語圏北アフリカの現代文学を対象とする本研究は、その母体となった「日本マグリブ文学研究会」がアルジェリア独立 50 周年に当たる 2012 年に結成されており、以後、定期研究会を開催し、従来個々に研究を蓄積してきた国内の関連研究者の交流を進めるとともに、海外の研究者の受け入れを共同で担うことを企図していた。2014 年度から活用された本科研費は、この活動を大きく推進させるための資金的バックボーンとなり、国外からは入手の難しい資料の現地収集や海外研究者との交流を組織的に進め、国際的な研究ネットワークを構築することを目標とした。

2. 研究の目的

本研究は、広域フランス語圏文学において極めて重要な分野である「マグリブ文学」を対象とし、その中核をなしているアルジェリア仏語文学の歴史的展開を明らかにしていくことを目的とした。その際、先住民のベルベル文化との関わり、内外のアラビア語文学および東アラブ地域(マシュレク)の文学との比較を通して、フランス語圏文学・アラブ文学・ベルベル文化の交差するコーパスとしての「アラブ=ベルベル文学」を論じることとし、さらに、ベルベル語のように制度化が遅れつつも活発な文化の担い手である言語の観点を重視し、地域を超えた比較の可能性を探求することとした(特に奄美・台湾・チベットなどを想定)。

3. 研究の方法

文学研究の王道は個々のテキストの丹念な読み込みにあるため、基本的には個人によるテキスト分析と論文の執筆を行なったが、研究メンバーの間で綿密な連絡を取りつつ、定例研究会を開催するなど研究情報の共有を図った。また、アルジェリア・モロッコ・フランス・レバノン・カナダなどで出版された資料を収集し、海外研究者と意見交換を行うため、現地調査を行うとともに国際学会・シンポジウムに積極的に参加した。海外研究者を招聘し、国際共同研究会・シンポジウムも複数回開催し、継続的に互いの研究成果を共有できるネットワークの構築に努めた。

4. 研究成果

本研究を通して、国内の共同研究基盤である「日本マグリブ文学研究会」の活動が軌道に乗り、これを母体として、また「韓国マグリブ文学研究会」と共同し、日韓マグリブ文学研究セミナーや、アルジェリア文学やレバノン文学に関する国際シンポジウムを開催した。その結果、アルジェリアのメディアに取り上げられたり、海外の研究者から問い合わせや訪問を受けるようになった。主要なものを以下に列挙したように、個別の論文・講演は相当の数に及んでいるが、特筆すべきは、水声社からマグリブ文学の翻訳コレクション「エル・アトラス」シリーズを立ち上げ、小説作品の翻訳を通して、研究成果を一般読書人に直接提供する体制を整えたことにあるだろう(その他、彩流社・白水社からも翻訳刊行有り)。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 19 件)

1. Satoshi Udo, « Toucher les souffles marginaux : réflexions sur quelques reflets de la banlieue parisienne au Japon », *TTR: Traduction, terminologie, redaction*, 31-1, 2019, pp. 171-192. [査読有り]
2. Kiyoko Ishikawa, « L'exil et l'écriture : Fatima ou les Algériennes au square de Leïla Sebbar » 『静岡文化芸術大学紀要』18, 2018, pp. 1-8. [査読有り] (<https://suac.repo.nii.ac.jp>)
3. 武内旬子 「『父の娘』に書くことは可能か：アジア・ジェパールにおける「父」と書く娘」 『神戸外大論叢』68(2), 2018 年, 65-91 頁. [査読有り] (<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp>)
4. 青柳悦子 「『貧者の息子』の語り(1)：物語における現在形の多様な効果」 『文藝言語研究』(71), 2017 年, 1-69 頁. [査読有り] (<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp>)
5. 青柳悦子 「1938-1939 年のカビリー報道：カビリー人作家フェラウンの出発点として」 『文学研究論集』(35) 2017 年, 1-21 頁. [査読有り] (<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp>)
6. 石川清子 「フランスで「移民」がノについて書くということ：マグリブ移民を巡る文学」 『立命館言語文化研究』29(1), 2017 年, 15-30 頁. [査読無し・依頼論文] (<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/kiyou.html>)

7. Kazue Hosoda, “Japanese Reception of Literary Translation from the Middle East: Focus on Arabic and Hebrew Literature”, *The 9th CISMOR Annual Conference on Jewish Studies “Judaism and Japanese Culture: Studies in Honor of Yoel Hoffmann*, 2017, pp. 131–151.
8. 二村淳子「ファンチャンの『成功』：ベトナム絹画の誕生とその両義性」『九州地区国立大学間連携教育系・文系論文集』5-1, 2017, 19頁（ノンブル無）．[査読有]
9. 鷗戸聡「小さな文学にとって 世界文学 は必要か?」『文学』第17巻・第5号，岩波書店，2016年，149–167頁．[査読無・依頼論文]
10. Satoshi Udo, « Présence maghrébine au Japon: Contextes historiques de traduction et d'interprétation », *Expressions maghrébines*, 15-1, Tulane University, New Orleans, 2016, pp. 187–197. [査読有]
11. 石川清子「ヤミナ・ベンギギの映像作品とテキスト：フランスにおけるマグレブ移民の母たちと娘たち」『静岡文化芸術大学研究紀要』第15巻，2016年，1–14頁．[査読有] (<https://suac.repo.nii.ac.jp>)
12. 細田和江「ヘブライ文学からイスラエル文学への系譜：イスラエルのアラブ圏出身作家とパレスチナ・アラブ人作家による新たな潮流」『ユダヤ・イスラエル研究』30, 2016年，47–61頁．[査読有]
13. Etsuko Aoyagi, « La narration instable et une vision trans-subjective dans L'étage invisible d'Emma Belhaj Yahia: un roman tunisien vu selon l'optique japonais » 『外国語教育論集』第37号(筑波大学外国語センター)，63–73頁．[査読有] (<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp>)
14. 二村淳子「「安南ルネサンス」への一考察:20世紀初頭におけるベトナム芸術をめぐる二つの「ルネサンス」」『比較文学』第58号，日本比較文学会，2015年，39–53頁．[査読有]
15. 石川清子「記憶としてのグット・ドール，バルベス：戦後マグレブ移民とパリ」『静岡文化芸術大学 研究紀要』第15巻，2015年，1–14頁．[査読有] (<https://suac.repo.nii.ac.jp>)
16. 武内旬子「マリカ・モカデにおける「混ざった」ヒロイン」『神戸外大論叢』65(1) 2015年，31–53頁．[査読有] (<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp>)
17. Kiyoko Ishikawa, « La Soif d'Assia Djebar : la naissance d'une écrivaine et le jeu romanesque », *LADICIL*, (1) 2014, pp. 349–367.
18. 武内旬子「母語は変わる：アジア・ジェバールとマリカ・モカデムにおける女性三世代の変容」『神戸外大論叢』64(3) 2014年，99–117頁．[査読有] (<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp>)
19. 鷗戸聡「敗北を異言語に抱きしめる:金石範からムールート・マムリへ」『立命館言語文化研究』25巻2号，2013年，127–139頁．[査読無・依頼論文] (<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/kiyou.html>)

〔学会発表〕（計13件）

1. 鷗戸聡「新しい ことば を作る：小さな文学の挑戦と可能性」，国際シンポジウム「チベット文学と映画制作の現在」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2019年3月15–17日．[招待講演]
2. 青柳悦子「アルジェリアの“日本マンガ”：新しい文化的ポリフォニーの誕生」国際シンポジウム「フランス語によるアラブ＝ベルベル文学における多声／多言語性（ポリフォニー）」，国立民族学博物館，2019年2月27日．[招待講演]
3. Satoshi Udo, “Literary Representations of the Violence in Algerian Civil War”, the International Conference of “Religion, Violence and Multiculturalism: An Interdisciplinary Inquiry” at National Cheng Kung University (Taiwan), Nov. 30–Dec. 1, 2018. [招待講演]
4. Etsuko Aoyagi, « L'Influence des éditeurs sur l'image de Mouloud Feraoun », La commémoration du 56ème anniversaire de l'assassinat de Mouloud Feraoun, Université d'Alger 2, Alger (Algérie), March 7, 2018. [招待講演]
5. 石川清子「アルジェリア系フランス人映画監督ヤミナ・ベンギギ作品における移民女性」日本比較文学会第44回中部大会，名古屋大学，2018年5月12日．
6. Etsuko Aoyagi, “The falsified representation of the Algerian author Mouloud Feraoun; An analysis of its generation process and re-evaluation of his works”, AFOMEDI (Asian Federation of Mediterranean Studies Institutes) conference, Institute for Mediterranean Studies, Busan University of Foreign Studies, March 10, 2017. [招待講演]

7. Etsuko Aoyagi, « L’Influence des éditeurs sur l’image de Mouloud Feraoun », La commémoration du 56ème anniversaire de l’assassinat de Mouloud Feraoun, Université d’Alger 2, Alger (Algérie), March 7, 2018 . [招待講演]
8. 石川清子「アルジェリア系フランス人映画監督ヤミナ・ベンギギ作品における移民女性」日本比較文学会第44回中部大会，2018年5月12日．
9. Kiyoko Ishikawa, « L’exil et l’écriture : Fatima ou les Algériennes au square de Leïla Sebbar », 31e congrès mondial du CIEF Martinique, 27 juin 2017. [国際学会]
10. 鷓戸聡「小文学礼賛，あるいはなぜ外国小説を読むのかについての新たな問い」第24回全伯日本語・日本文学・日本文化学会/第11回ブラジル日本研究国際学会(XXIV ENPULLCJ/XI CIEJB)，アマゾナス 連邦大学，2016年9月21日．[基調講演・国際学会]
11. Kiyoko Ishikawa, « Qu’est-ce qu’un écrivain algérien ? Assia Djébar vue par Kamel Daoud », 30e congrès mondial du CIEF, 26 mai 2016. [国際学会]
12. Satoshi Udo, « Le copillage du sujet chez Kateb Yacine: l’écriture archipelagique, ou la cosmographie comme "utsushi" », Colloque international: Berceau du temps, Passage des âmes, Maison de la culture du Japon à Paris, 2015. 01. 23. [招待講演]
13. Kiyoko Ishikawa, « Ma rencontre avec l’œuvre d’Assia Djébar et la traduction en japonais », Journée d’étude l’œuvre d’Assia Djébar : dans la langue de l’autre (Paris, Centre culturel Algérien à Paris), 13 juin 2015. [招待講演]

〔図書〕（計9件）

1. 鷓戸聡「「アルジェリア人」とは誰か？：カテブ・ヤシンにおける「ネイション」の潜性」，庄司宏子編『国民国家と文学』作品社，2019年，21–60頁．
2. カメル・ダーウド『もう一つの「異邦人」』（鷓戸聡訳）水声社，2019年，208頁．
3. アルベール・カミュ『バンド・デシネ 異邦人』（ジャック・フェランダス絵，青柳悦子訳）彩流社，2018年，144頁．
4. 鷓戸聡「アラブ演劇の（非）流通から 世界文学 を踏み外す」稲賀繁美編『海賊史観からみた世界史の再構築』，思文閣出版，2017年3月，761–775頁．
5. ISHIKAWA Kiyoko, « Devenir la voix d’Assia Djébar : Entretiens avec Kiyoko Ishikawa », Amel CHAOUATI (dir.), *Traduire Assia Djébar*, Edition Sedia, 2018.
6. ザカリーヤ・ターミル『酸っぱいブドウ／はりねずみ』（柳谷あゆみ訳）白水社，2017年，218頁．
7. 青柳悦子「ムルド・フェラウン，歪められた作家像の再検討のために」松田幸子他編『異文化理解とパフォーマンス』春風社，2016年，323–348頁．
8. ムルド・フェラウン『貧者の息子：カピリーの教師メンラド』（青柳悦子訳）水声社，2016年，278頁．
9. エムナ・ベルハージ・ヤヒヤ『青の魔法』（青柳悦子訳）彩流社，2015年，182頁．

6．研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：青柳 悦子

ローマ字氏名： Aoyagi Etsuko

所属研究機関名：筑波大学

部局名：人文社会系

職名：教授

研究者番号（8桁）：70195171

研究分担者氏名： 石川 清子

ローマ字氏名： Ishikawa Kiyoko

所属研究機関名：静岡文化芸術大学

部局名：文化政策学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：30329528

研究分担者氏名： 武内 旬子

ローマ字氏名： Takeuchi Junko

所属研究機関名：神戸市外国語大学

部局名：外国語学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：30329528

研究分担者氏名： 酒井 佑輔

ローマ字氏名： Sakai Yusuke

所属研究機関名：鹿児島大学

部局名：法文教育学域法文学系

職名：准教授

研究者番号（8桁）：30632591

研究分担者氏名： 細田 和江

ローマ字氏名： Hosoda Kazue

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：アジア・アフリカ言語文化研究所

職名：助教

研究者番号（8桁）：80779570

研究分担者氏名：二村 淳子

ローマ字氏名： Nimura Junko

所属研究機関名：鹿児島大学

部局名：総合科学域総合教育学系

職名：講師

研究者番号（8桁）：20782452

研究分担者氏名：柳谷 あゆみ

ローマ字氏名： Yanagiya Ayumi

所属研究機関名：公益財団法人東洋文庫

部局名：研究部

職名：研究員

研究者番号（8桁）：90450220

(2)研究協力者

研究協力者氏名： 陳麗君

ローマ字氏名： Tan Lekun

研究協力者氏名： カシオ・ジョゼ・フェレイラ

ローマ字氏名： Cacio José Ferreira

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。